



第2回ようぼく一斉活動日

教区管内19カ所で開催



第658号

発行所

天理教静岡教務支庁

〒425-0013

焼津市岡当日1番地

TEL (054) 626-1333

FAX (054) 628-4615

Email: skyou@live.jp

第二回「ようぼく一斉活動日」(主催)教会本部が六月一日・二日に開催された。同行事は教祖百四十年祭へ向かう三年千日の期間中に全五回、教区・支部の運営のもと行われ、静岡教区管内では十九会場ずつとめられた。

前回同様、開会挨拶、おつとめ「誦経第四号」拝読、教会本部からのメッセージのほか、会場ごとに設定した独自のプログラムが行われたが、一回目の開催を踏まえ、各支部が工夫を凝らしてつとめられた。

ここで管内の支部ごとの様子を自主プログラムを中心で紹介したい。

東伊豆支部では支部管内において二カ所で開催した。

一組(伊東、熱海)は六月二日に伊東分教会を会場に、二組(東伊豆、下田、南伊豆、河津)は六月一日に下田分教会を会場にそれぞれ開催した。

両会場とも二名づつによる感話、茶話会、支部各会より活動報告



東伊豆支部



教区情報ねっとQRコード



などが行われた。感話ではそれぞれ自身が味わった身上、事情を通し親神様、教祖の御守護を感じる体験談や、年祭に向けての歩み方などを話され、受講者に共感と深い感動を与えた。

伊豆支部



伊豆支部では、一日十三時より北豆分教会で、二日十三時より西浦分教会で開催した。独自のプログラムとして、陽気チャンネルの「頑張らなくて良い」貴方はそのままのできるくとのタイトルのものと、夕張大教会

駿豆支部



駿豆支部では一日午前九時三十分より四会場で開催した。

佐野原大教会会場で、鈴木理一大教会長を講師として「親心と御恩報じ」をテーマに講話を行った。教典、教祖伝や自らの体験を交えてお話を頂き、参加者の方々は熱心に聞いていた。嶽東大教会会場で、

前会長、藤田文雄先生お話のビデオ視聴をした。

その後は、班ごとに茶話会がもたれ、ビデオ視聴の感想など、自分たちが出来る年祭活動について語り合った。

神名流しを四つのコースに分かれて行い、歩くのが難しい人は教会の前でよろづよ八首を奉唱した。予定したより多い人数で行われた。

沼津大教会会場では、千本浜海岸の空缶、ペットボトルなどのゴミ拾いを行った。約四十分間、全員が精一杯ひのきしんに励んだ。

楊原分教会会場では、おつとめの教理勉強を行った。最初に支部長がおつとめの理合いや大切さを話した上で勉強会に入った。内容はクイズ形式で楽しく進められた。



富士支部

富士支部では二日九時三十分より富士原分教会を会場に開催した。前回は初心者を対象に講師の説明の下、おてふりの練習を行った。

今回は、もう一歩踏み込んで手振りとお歌の関係(意味)を解りやすく学んだ。

又、おたすけという上から社会福祉の一環として「ファミリーサポート」の説明と里親の実体験を通して参加者に現状を説明した。

東駿支部



東駿支部では二日九時三十分より、興津分教会を会場に開催した。「先人に学ぶ」ということで、「けっこう源

さん」の映画を上映したが、信仰初代の熱心さが伝わってきて参加者が感動を覚える内容だった。

中駿東支部



中駿東支部では二日十時より、静岡大教会を会場に行われた。今回はテーマを「ひのきしん」とし、御門

台分教会ようぼく小川嘉隆さんの感話を聞かせていただき、続いて「ブレイクタイム」では、身体を動かしながら、広告紙を使ったゴミ箱を参加者全員で作る、周りの人達とたすけあいながら、和やかなひとときを過ごした。プログラム終了後、

婦人会が主催でバザーを行い、今回の売り上げは全て災害救援基金に寄付させて頂いた。

中駿西支部



中駿西支部では六月二日九時三十分より、安倍分教会・井川分教会、十四時より駿府分教会を会場に開催された。

自主プログラムは「座りづとめのお手直し」で、前半に改めておつとめの意義と心構えを勉強させて頂いた。き、その後宮森先生のおてふりのDVDを教材につとめ、知らず知らずのうちについてしまっていた自分の癖に気づ

かれた方もおられたようだった。おつとめを、これからもより一層真剣につとめさせていただくことを互いに誓わせていただいた。

西駿支部

また、今年の初めに能登半島地震への支援の募金を行い、支援していただいた皆さんにどのような支援金が使われているのかを知っていたかどうかと、一昨年の台風十五号で被災した時の写真も合わせて、災害隊で撮った写真をもとに当支部で活動紹介ビデオを製作し、視聴した。



西駿支部

西駿支部では、一日午後一時三十分より教務支庁、二日午前九時三十分より白羽大教会を会場に開催した。

中遠支部

独自のプログラムとして和歌山県在住の窪田哲氏(紀伊正寿分教会長)と長女の窪田ももさん父子に登壇頂き、父親の哲氏の悪性リンパ腫の身上から、それぞれの立場からどのように向き合ったのかをお話し頂いた。その後の懇談(おしゃべり)タイムでは、参加者が窪田父子の感話を元に、熱心に話し合った。参加者からは、「非常にためになった」「娘さんの話に感動して涙が出た」等の感想が上がった。

中遠支部では二日十時より山名大教会を会場に開催した。独自プログラムとして、支部オリジナルビデオを作成し地元よう

ぼくを紹介した。午後
の茶会も盛況で、テー
ブルごとによろぼく同
士が話し込んでる姿が
多く見られた。

西遠支部



西遠支部では、二日
九時三十分より、東瀨
名分教会を会場に開催
した。

独自プログラムでは、
「陽気チャンネル」か
ら吉川万寿彦本部員の
講話を視聴し、その後、
婦人会・青年会による
手作りの、マリトッツ
オやポップコーンを参
加者に配りながら、茶
話会へと移行し、会場
内のテーブルを囲んで
様々な話題に談笑する

様子がうかがえた。
又、茶話会の会場では、
「静岡おうた演奏会」
のビデオを上映し、懐
かしい思い出話に、花
が咲いた。

さらに今回は、婦人
会を中心に多くの教会
や教友が協力をして
「たすけあいバザー」
を行い、当日参加して
下さった方々には、大
変喜んで頂くことがで
きた。

今回のバザーの収益
は、総て能登半島地震
の被災者の方に届くよ
う寄付をさせていただ
いた。

北遠支部



北遠支部では六月二
日午前九時より鹿玉分
教会を会場に開催した。

支部独自のプログラ
ムでは本部准員山田清
三先生の講話を聞かせ
て頂いた。「月日のや
しろ」というテーマで
実体験を交えてわか
りやすくお話し下さっ
た。

帰りには、婦人会手
作りのスイーツ三種類
と、手作りコースター、
毛糸のポンジ等を配
らせていただいた。

各会場の様子



下田会場



嶺東会場



楊原会場



北守会場



安倍会場



白羽会場



井川会場

第2回よろぼく一斉活動日 参加者集計

各支部からの報告書による 6月14日現在

支部名	会場	開催日	合計
1 東伊豆	下田	6月1日	25
	伊東	6月2日	55
3 伊豆	北豆	6月1日	61
	西浦	6月2日	41
5 駿豆	佐野原	6月2日	119
	嶽東	6月2日	140
	沼津	6月2日	61
	楊原	6月2日	64
9 富士	富士原	6月2日	108
10 東駿	興津	6月2日	106
11 中駿東	静岡	6月2日	124
12 中駿西	井川	6月2日	49
	安倍	6月2日	43
14 駿府	駿府	6月2日	38
	教務支庁	6月1日	140
16 西駿	白羽	6月2日	199
17 中遠	山名	6月2日	233
18 西遠	東濃名	6月2日	250
19 北遠	鹿玉	6月2日	155

2011

教区全体会議を開催

五月三十日、教務支庁にて全体会議が開催された。

挨拶に立たれた鈴木道輝教区長は、「表統領先生は『今回の年祭は銘々やそれぞれの教会が目標を立てて、歩み始めたが、これまでなかった歩みなので、最初は戸惑い、手探りだった。年祭活動も今半分が経過し、これまでの歩みをしっかりと振り返り、周りと勇んで歩んでいると確



認できればこれまで通り進めばいい。これではと思えば、最初に定めた目標でもそこを修正し新たに目標を定め直して後半に向かったらどうか』と話された。年祭活動を通る上で教祖のひながたを通るという事について、『天理時報』で内統領先生は、『ひながたを辿るとは、教祖と同じ気持ちになつて、分からない人に分かってもらえらるまで精一杯つとめさせてもらうということと、教祖が現身を隠されてまでお望みになったこと、すなわちつとめとさづけを何とか実現できるよう励ませてもらうこと』と仰いました。私はこれまでの年祭活動の前半を振り返り、この辺が届いていなかったと反省し

ました。まだ、分かっている人に、しっかりと諦めることなく教えを伝えていくということ、これは何もにをいがけに限ったことでなく、内へ向かつては丹精という上でもやはり同じことが言えると思います。年祭活動の後半に向かつては、やはり、この教祖のお心を心に置いて、諦めることのない布教、丹精、ここにさらに拍車をかけていかねばならないと改めて思わせていただきました」と述べられました。続いて教区長を議長として決算審議が進められ、まず永井磨会計室長より令和五年度決算の発表、鈴木理一主事より災害準備金決算の説明、郷内一衛主事より管理積立金決算の説明の後、質疑応答と採決が行われ、全会一致で可決された。

災害救援ひのきしん隊教区隊 二度にわたり被災地へ出動

災害救援ひのきしん隊静岡教区隊（山口志朗隊長）では、おちばからの要請を受け、能登半島地震被災地に五月十六日より十九日にかけて三十一次隊として十五名が出動。さらに六月九日より十二日まで三十六次隊として十四名が出動し、本部隊や他教区隊と共に尊い汗を流した。教区隊として三度

目、四度目の派遣。輪島市にある日本航空学園能登キャンパスに設置された宿営地を拠点に、三十一次隊は五月十七日より輪島市内の個人宅のブロック塀解体と片付け、玄関の修復、家財道具の運び出しや灯籠や墓石の修理、ダンブでの瓦礫の運び出しを、三十六次

隊は六月十日より輪島市内にある教会の神殿・教職舎・渡り廊下屋根修繕、壁のブルーシート掛け、個人宅のブロック塀の解体と片付け、瓦礫の搬出などに精一杯つとめさせていた。三十六次隊の隊期中、青年会ひのきしん隊として実動された青年会長様からもねぎらいのお言葉を頂き、隊員一同、大きな喜びを胸に十二日、隊期を終え帰静した。

